

第3回 高知県地球温暖化対策実行計画推進協議会・議事概要

日時：令和2年10月28日(水) 午後1時30分～午後4時00分

会場：高知会館3階「平安」

1. 開会

高知県新エネルギー推進課(以下「事務局」という。)より、「第3回 高知県地球温暖化対策実行計画推進協議会」の開会が宣言された。

2. 委員紹介

事務局 委員出席者は7名(八田委員、古谷委員の2名が欠席)であり、9名の委員の過半数が出席しており、本協議会設置要綱に基づき、本日の協議会は成立する旨、宣言する。

3. 説明・協議事項

(1) 事業者アンケートの集計結果について

事務局 説明・協議事項(1) 配布資料を説明した。

浅野会長 エコカーの購入意識について前回のアンケート結果と比較して消極的な傾向が見られるようになったとのことだが、これはエコカーの目新しさが薄まり、地球温暖化対策について経済的、合理的な対策が実施されるようになったことが考えられ、必ずしもネガティブな結果ではない。

今西委員 高知県では地球温暖化を起因とする激甚災害は他県と比較すると少ないが、県民に地球温暖化の影響を意識してもらうような啓発活動が必要ではないかと考える。

浅野会長 ごみ収集業に関しては、エコカーではパワー不足のため利用されていないのが現状である。行政への要望に対する自由回答を見ると多くの意見があり、温暖化対策に対する民間企業の意識はある程度高いと感じた。

徳弘委員 自由回答は森林、再生可能エネルギーに関する意見が多いように思われ、高知県らしさが現れており参考になると思う。

明神委員 SDGs を温暖化対策のインセンティブとして活用することができると思う。

明神委員 コスト面から大型車両のエコカーへのシフトは難しい。温暖化対策としてエコドライブの指導、導入が取り入れられている。

(2) 計画の素案について

事務局 説明・協議事項(2) 配布資料を説明した。

浅野会長 6から8章の変更部分が分かりづらいため、見え消しで表現するなど変更部分が分かるような資料を作成すること。

コロナ禍をピンチでなくチャンスと捉え、観光スタイルの変化や働き方の変化に対応できる、また、新しいスタイルでの生活ができるような県を目指すのが重要である。Build Back Betterのような考え方で対応すべきである。

菅首相の所信表明で述べられた2050年のカーボンニュートラルの実現に対して、高知

- 県らしく、石油製品を木材製品へシフトさせるなど考えるべきだと思う。また、カーボンニュートラルに向けて、二酸化炭素の吸着だけでなく、貯留技術の活用も考えられる。
- 内田副会長 コロナ禍に関して、廃棄物部門については使用段階でなく製造段階でのコントロール（不要なものを製造しないなど）が今後必要になるのではないかと思う。
- 自転車利用促進のために、自転車が利用しやすいような街づくりが重要になると考える。街づくりに関しては、山から川、川から海へ環境は繋がっているため、繋がりを意識した環境維持・保全の観点が必要である。
- 松岡委員 カーボンニュートラルの実現には都市木造を目指すぐらいのことをしなければいけないと思う。CLTの利用促進は現実的だが、もっと積極的・大胆なビジョンを掲げてはどうか。
- 徳弘委員 6章の将来目指すべき像の書きぶりは、現実的なビジョンであると思うが、脱炭素社会を見越して、もっと大きなビジョンを掲げてみてはどうか。
- 下元委員 SDGsの観点で、環境に優しい製品の製造が取引の条件になってきている。環境に優しい製品に価値が付くような社会になれば良い。「コロナ禍からの復興」という見出し（ビジョン）については「アフターコロナ」という印象を受けたが、ウィズコロナも含めたビジョンにするのが良い。
- 今西委員 環境基本計画が上位計画なので、環境基本計画の中で大きなビジョンを記載し、温対計画では実行可能なビジョンを書くことでも良いと思う。
- 明神委員 高知は地方都市としては電車が多く走っていると思われ、電車からの二酸化炭素排出量のインパクトは大きいと思う。東京の世田谷線で排出量実質ゼロの車両が運行されており、2050年の実質排出量ゼロを目指すのであれば、電車排出量実質ゼロを検討する必要があると思う。但し、実質排出量ゼロのための車両の仕様は限られる。
- 事務局 環境に優しい製品への付加価値は、コロナ禍で経済が落ち込む中で厳しいようにも思えるが、環境に優しい商品を買おうといった活動などはできるかと思う。
- カーボンニュートラルの観点で、プラスチック製品を紙製品に、鉄・コンクリをCLTへシフトすることができるのではないかと考える。また、高知らしさとして藻場や海藻による二酸化炭素吸着が考えられると思う。

(3) その他

- 事務局 配布資料には含まれていないが、住友大阪セメントへアンケートを実施した。削減量に関する目標はまだ設定されておらず、今後、専門委員会を設立し検討されるとのこと。行政への要望に関しては特に回答が得られなかった。
- 浅野会長 アンケートでは行政への要望は分からなかったが、今回アンケートを実施したことは、大きな一歩だと思うので、引き続き、住友大阪セメントとのコミュニケーションを維持することができればよいと思う。
- 内田副会長 新型コロナウイルスの名称については、今後さらに新型ウィルスが出てくる可能性もあるため、正式名称を併記するのが良いと思う。
- 浅野会長 コロナによってライフスタイル、働き方が変わってきており、それらの変化に対応し、高知県が受け皿になれば良いと思う。

4. 閉会

以上をもって、「第3回 高知県地球温暖化対策実行計画推進協議会」を閉会。
次回協議会は12月8日(水)13時30分に高知共済会館「藤」にて開催する予定とする。

以上